



# Newsletter

No. 14 June 2014

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点

## 「魚の釣り方、井戸の掘り方」

私達のように国際協力関連の仕事に携わっていると、この分野にまつわる格言・名言のようなものをしばしば耳にします。中でも私が感銘を受けたものの一つをご紹介します。

世界で水が不足している地域に井戸を掘る活動を行う、インターナショナル・ウォーター・プロジェクトという団体があります。その代表の方が話されていたのが、「ただ水を与えるのではなく、井戸の掘り方を教えよ」というものです。もとはアフリカのことで「飢えている友達がいたら、ただ魚を与えるのではなく、釣り方を教えよ」に端を発します。飢えに困った人がいた場合、すぐに魚を与えてしまっただけでは同じことが再び起こりうる、釣り方を教えて魚を継続的に得られるようにすることこそが真の解決につながる、という意味です。「井戸の掘り方を教える」とはまさにこの自立支援を促すもので、国際協力の精神の真髄とも言えるでしょう。短期的な成果ばかりを追求するのではなく、長期的に現地の人々にとって何がプラスとなるか、そのためにどのようなプロセスが必要か、ということを常に考えさせられます。

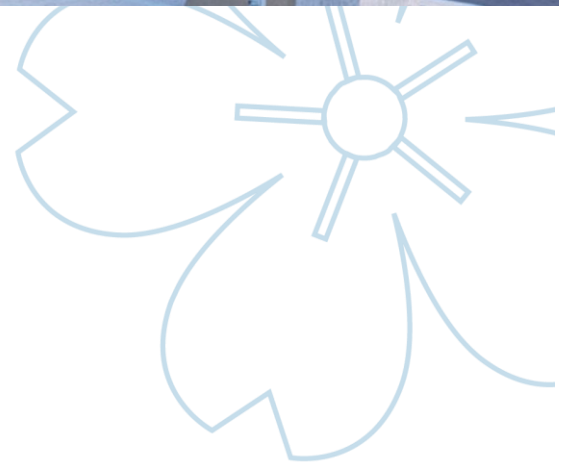
私は現在チリ人医師に対して内視鏡技術の指導を行っており、彼らが日本式の技術を身に付けて日々上達するのをとても頼もしく感じております。しかしながら医療行為の指導は日本人同士であっても骨の折れる仕事です。技術指導は本来論理的に説明されるべきものではありませんが、一方で内視鏡には施行者にしか分からないような感覚的な側面も少なくありません。現地ではさらに言葉や文化の壁があり、細かな点や感覚的な要素をどう伝えるかといつも頭を痛めています。

どうしても彼らが行う検査は時間が掛かってしまうため、ふと、内視鏡業務を全部自分でやってしまった方が早いのではないか、安全に終われるのではないかという思いが頭をよぎります。しかし後人が育たなければ状況は変わらず、自分たちが去った後はまた元の状態に逆戻りしてしまうでしょう。そんな時こそこの格言を思い出し「魚の釣り方、井戸の掘り方」を教え、もし自分たちがいなくなっても同じようにプロジェクトが続けられるよう、ひいては彼らが次の指導者となり日本式技術指導の担い手となれるようにと、日々勤しんでおります。

最後に、元国連難民高等弁務官の緒方貞子さんのお言葉です。

「自分の国だけの平和はありえない。世界はつながっているのだから。」

岡田 卓也 LACRC 食道・一般外科学分野



**LACRC** TMDU IN CHILE  
Latin American Collaborative Research Center  
Santiago de Chile



## Contents

ご挨拶 .....	1
エクアドルプロジェクト .....	2
PRENECの進捗状況 .....	4
TMDU派遣団の活動報告 .....	6
LACRC活動報告 .....	8
プロジェクトセメスター .....	9

# エクアドルプロジェクトが大きく前進

本学は2012年8月、エクアドル保健省と大腸癌検診プログラム協力に関する協定を締結しました。以降、拠点病院であるキト・国立パブロ・アルトゥロスアレス病院において大腸癌検診プログラムが進められ、本学はLACRCを中心にプロジェクトへの支援を続けてまいりました。初年度の検診成績が大変良好なものであったことから、本プロジェクトは他病院、他地域へと広がる国家プロジェクトへ発展しようとしています。

## エクアドルでのプロジェクトの進捗報告



### エクアドル共和国の基礎情報

- ・首都 :キト
- ・言語 :スペイン語
- ・人口 :15,298,268 人  
(在留邦人数は399人)
- ・面積 :283,560 km<sup>2</sup>  
(日本の約3分の2)
- ・大統領 :ラファエル・コレア氏

2012年の協定締結と前後して国立パブロ・アルトゥロスアレス病院にて進められてきた免疫学的便潜血反応検査(iFOBT)を用いた大腸癌検診プログラムは、パイロットプログラムと位置づけられていました。2013年にパイロットプログラムの結果がまとめられましたが、検診参加者4253名、内視鏡検査が146例に施行され、51名に腫瘍性病変が、うち12名に大腸癌が見つかりました。

発見された大腸癌の中には、従来エクアドルでは発見されることがほぼ皆無であった表面型早期大腸癌も含まれており、本検診プログラムの有用性が期待される結果となりました。本プログラムは、将来的な大腸癌の死亡率低下のみならず、手術や化学療法を必要としない早期癌の比率が増加することによる医療費の抑制という点でも期待されるものです。

エクアドル保健省は本パイロットプログラムの結果を重視し、キト市内の複数施設およびキト最大の都市であるグアヤキル、またエクアドル内で大腸癌の発生率が高い地域として知られる南部のロハにおいても大腸癌検診プログラムを展開する方針を固めました。現在、国立パブロ・アルトゥロスアレス病院のプロジェクトリーダーであるモンタルボ医師が中心となり、検査・診断・治療に関する共通のプロトコル作成やデータベース・ネットワーク構築などの作業が進められています。

エクアドル政府は、本検診プログラムにおいては本学の協力が必須と認識しており、内視鏡検査・診断や病理診断の指導のみならず、プロトコル作成やデータベース構築等の点においても協力を要請しています。また、大腸癌のみならず、エクアドルで頻度の高い胃癌、子宮頸癌、前立腺癌、乳癌といった領域でも検診プログラムを構築する計画も進められており、そのうち胃癌に関しては日本の早期胃癌の診断・治療技術を取り入れる方針となっています。

本学のエクアドルへの協力に対しては、在エクアドル日本国大使館からも高い評価を頂戴し、プロジェクトの推進のため拠点病院へのご支援も頂いております。

以上のように、エクアドルプロジェクトは本年に入り大きく前進しており、大腸癌、胃癌に関しては本学の協力がこれまで以上に重要となっております。LACRCとしましては内視鏡部門、病理部門ともにエクアドルの癌診療に寄与できるよう今後も一層努力してまいります。



## 第二回エクアドル日本・大腸病変講習会を開催

2014年6月3日から6日にかけて、エクアドル・キトにおいて、「第二回エクアドル日本・大腸病変講習会」が開催されました。本講習会はエクアドル保健省と本学との共催で実施され、LACRCより河内講師、岡田助教が講師として参加しました。国立パブロ・アルトゥロ・スアレス病院のスタッフや今後プロジェクトへの参加を予定する施設の医師ら、計60名以上が講習に参加しました。内視鏡部門は岡田助教が担当し、初日に「大腸内視鏡の前処置と挿入法」、「大腸癌検診の開始に伴う問題点と解決法」についての講演を行いました。その後、参加者の前で実際に大腸内視鏡検査を行い、挿入法と粘膜切除術に関する解説を行いました。手技の見学には約20人の医師が集まり、検査室から溢れるほどの盛況となりました。病理部門は河内講師が担当し、日本の大腸癌分類の紹介や、早期癌の診断方法などについて講義を行ったほか、実際に症例を顕微鏡で観察しながら病理所見の解説や参加者との討論等が行われました。最終日には内視鏡部門、病理部門合同で大腸病変の症例検討会を行い、診断や治療に関する解説や討論を行いました。エクアドルでは早期大腸癌の症例が少ないため経験に乏しい内視鏡医・病理医も多く、LACRCが引き続き支援を行う必要があると考えられました。

また滞在中、プロジェクト参加予定施設のひとつである、カルロス・アンドラデ・マリン社会保険病院への訪問・視察も行いました。



開会式典の様子



コース終了後、一部の参加者とともに記念撮影



カルロス・アンドラデ・マリン社会保険病院での病理標本検討

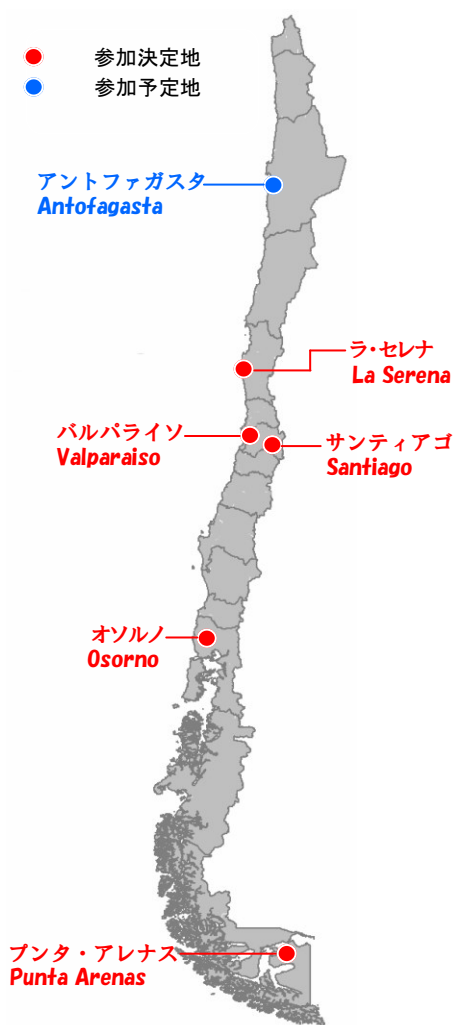


パブロ・アルトゥロ・スアレス病院での大腸内視鏡講習の様子

# PRENECの進捗状況

LACRCのメインミッションである大腸癌早期診断プロジェクト(PRENEC)の最新情報をご報告いたします。このプロジェクトでは、現在第5州バルパライソ、第12州プンタ・アレナス、首都州サンティアゴの3都市において免疫学的便潜血反応検査(iFOBT)を用いた検診プログラムが進行中です。また第4州ラ・セレナ(コキンボ)、第10州オソルノにおいても本年中に検診が開始されることが決まっています。

## アントファガスタ市における講習会を開催



### “Jornada de Actualización en Cáncer Colorrectal”

チリ北部に位置するアントファガスタ州(第2州)は、豊かな鉱物資源に恵まれた地域であり、世界最大の露天掘り銅山であるチュキカマタ鉱山が位置しています。

6月20、21日の2日間にわたり、アントファガスタ州アントファガスタ市の州庁舎にて、PRENEC開始に向けた説明会が開催されました。説明会にはLACRCより河内講師、岡田助教が、CLCよりロペス医師、サラテ医師、レイェス医師、ウリベ医師、ポンセ看護師が参加し、河内講師と岡田助教はそれぞれ「PRENECにおける病理医の役割」、「大腸ポリープの治療」に関する講演を行いました。

州庁舎では巨大な模擬大腸を用いた展示も行われました。多くの市民が集まり、関心の高さが伺われました。

今後は、アントファガスタでのPRENECが早期に開始されるよう、LACRCも協力をして参ります。



アントファガスタ州庁舎前での模擬大腸展示の様子。中央は、見学者に対して大腸癌検診プログラムの説明をするCLCサラテ医師。

## チリ保健省訪問

チリでは本年3月にバチレ新大統領を首班とする新政権が誕生しました。それに伴い省庁の人事も刷新され、保健大臣には小児科医のモリナ医師が新たに就任しました。国を問わず政権交代の際には、政府の方針が大きく転換されることがあります。本学の協力するプロジェクトが新政権下でも無事継続されるのかどうかは大いに懸念されるところです。

本年6月19日、CLCよりテヒアス病院長、ゴイコレア理事、ロペス大腸肛門科部長、国立サン・ボルハ病院よりエステラ日智消化器病研究所長、およびLACRCより河内講師と岡田助教が保健省を表敬訪問しました。会談ではロペス医師より、これまでのPRENECの参加者10,000名に関する癌の発見率や内視鏡による治療数等の結果を報告し、プロジェクト継続による大腸癌死亡率の低下や経済性についての説明が、エステラ医師よりサン・ボルハ病院におけるトレーニングについての説明がそれぞれ行われました。また、在チリ日本大使館より村上大使と山口書記官がお出ましくださり、プロジェクト継続の必要性などを大臣に訴えてくださいました。

モリナ保健大臣は大変興味深く傾聴され、保健省としてサポートを継続しプロジェクトが拡大できるよう、省内で検討するとのお返事を頂きました。



会談後、チリ保健省にてモリナ新保健大臣らと

## サン・ボルハ病院での大腸内視鏡トレーニング

チリ国内の大腸内視鏡検査施行医師を増員するため、2013年10月よりサンティアゴ、サン・ボルハ病院にある日智消化器病研究所で大腸内視鏡トレーニングコースが開設され、LACRCの岡田助教が中心となって指導を行っております。

2014年4月から6月に第二期の研修生として、国立ソテロ・デル・リオ病院よりカルバハル医師がコースに参加しました。大腸内視鏡の安全な挿入法や病変の発見、内視鏡治療に関する指導を行い、技術には目覚ましい上達が見られ、PRENECに参加可能なレベルに達することができました。コース終了後も積極的にPRENECに参加して頂けることを期待しています。



研修中のカルバハル医師(右)と岡田助教ら



# TMDU派遣団の活動報告

本学の浅原弘嗣教授、植竹宏之准教授、吉田丘特任教授、下田弘二室長、土屋誠課長補佐からなる訪問団が、本年6月16日から18日まで、チリに滞在しました。

今回の訪問では、本学とチリ大学の間で進められている合同大学院構想(ジョイントディグリープログラム、JDP)のための打ち合わせが主目的でしたが、他に現在進行中のチリにおける大腸癌早期診断プロジェクトに関する活動や、浅原教授らによるCLC腫瘍遺伝学研究室の視察・技術指導等、各種活動も行いました。また在チリ日本大使館への表敬や、プロジェクトセメスター学生との交流も行いました。

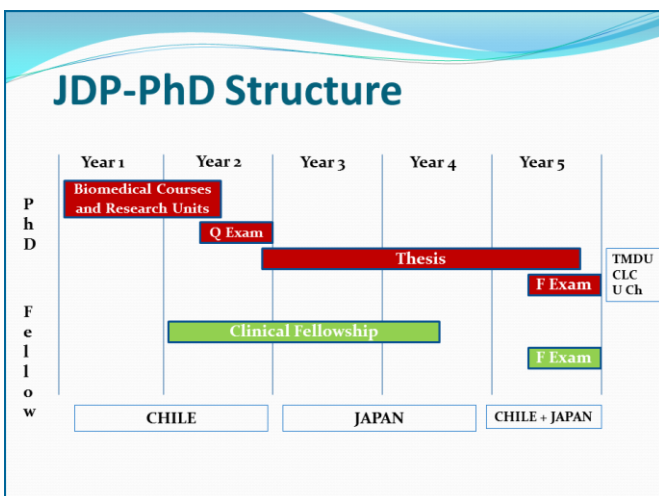
## CLCにおける協議(JDP)

本学は、国立チリ大学との間でジョイントディグリープログラムを2016年春にスタートさせる予定です。本プログラムは、主にチリおよびラテンアメリカ諸国の消化器外科医や消化器内科医を対象としており、内視鏡や手術手技等、消化器臨床のトレーニングを中心とした、いわゆる専門医育成プログラムと、基礎研究を行うPhDプログラムとを融合させたユニークなものです。修了者にはPhDの学位およびチリにおいて通用する消化器外科または内科専門医の資格が授与されます。期間は5ないし6年の予定で、学生はチリと日本(本学)を行き来しながら研究・研修生活を送るという計画です。

現在はコースの開設に向け、スケジュールや取得単位数といったカリキュラム・各種規則の調整などの作業が進められています。今回の協議では、臨床トレーニングの具体的な内容、基礎研究における指導体制等について、TMDU側と、チリ大学側(チリ大学および同大クリニカルキャンパスであるCLCの医師達)との間で活発な意見交換が行われました。



協議に先立ち、CLC理事長らを表敬



ジョイントディグリープログラムの概要 (UCh: チリ大学)



ジョイントディグリープログラムに関するミーティングの様子

## 在チリ日本国大使館・チリ大学表敬訪問

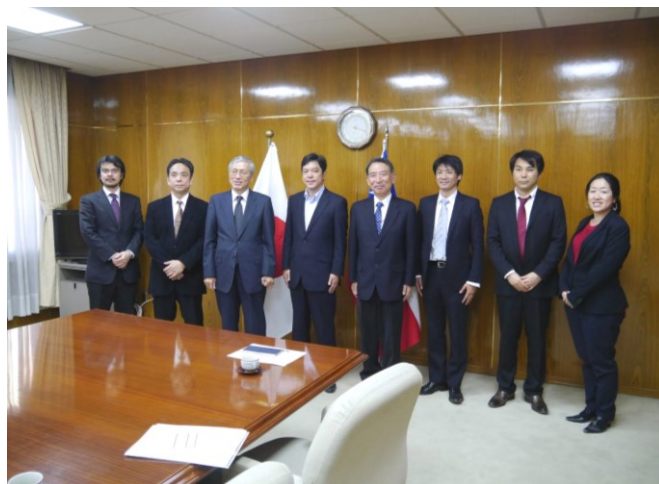
6月17日、訪問団およびLACRC教員が在チリ日本国大使館を表敬訪問いたしました。吉田特任教授から、村上大使に大腸癌検診プログラムの進捗状況や、ジョイントディグリープログラム構想についての説明が行われました。村上大使は大変興味深く傾聴され、今後も本学の活動を支援して下さるとのお言葉を頂戴しました。

また翌日、訪問団、LACRC教員、ならびにプロジェクトセメスター学生がチリ大学ビバルディ学長を表敬訪問いたしました。

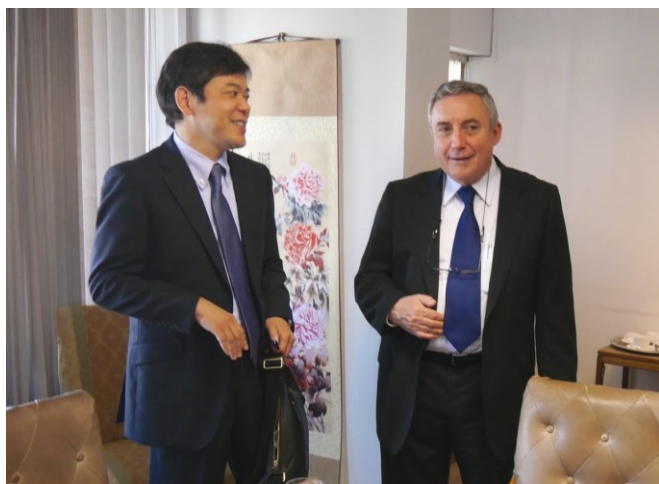
ビバルディ氏は、本年5月までチリ大学の前副医学部長を務めておられ、プロジェクトセメスター学生の受け入れ等に尽力してくださいました。また学会で訪日された際に、本学を訪問されたこともあるなど本学との繋がり強い人物です。

会談では浅原教授、植竹准教授、吉田特任教授らからジョイントディグリープログラムに関する説明が行われました。またプロジェクトセメスター学生による自己紹介も行われました。

ビバルディ学長は、これまでの本学とチリ大学との交流を高く評価され、今後、ジョイントディグリープログラムも積極的に進め、さらに交流を深めていく旨表明されました。



在チリ日本国大使館にて村上大使らと



歓談するビバルディ・チリ大学新学長と浅原教授



チリ大学本部玄関にて



# LACRC活動報告

## サンティアゴ消化器シンポジウムに参加

5月28日から30日の3日間にわたりチリ・サンティアゴにおいて消化器シンポジウム「IMÁGENES EN PATOLOGÍA DIGESTIVA」が開催されました。本シンポジウムはCLCと国立サン・ボルハ・アリアラン病院らの共催によるもので、チリ人医師のみならず、米国やブラジル、アルゼンチン等から講師が招かれたほか、LACRCも招待され、河内講師が「早期大腸癌の深達度分類」、「大腸鋸歯状病変の病理」について、岡田助教が「食道早期癌の診断」、「大腸早期癌の診断」について講演を行いました。また、実際の症例を用いた勉強会も催され、河内講師、岡田助教が食道早期癌症例について詳しく解説し、参加者より高い関心を集めました。

討論会では米国のジョンズ・ホプキンス病院やハーバード大学から招かれた講師らと、LACRC医師との熱い議論が交わされました。日本の消化管癌の診断・治療技術の高さをアピールする良い機会となりました。



岡田助教によるプレゼンテーションの様子



発表後、河内講師及び岡田助教によるディスカッションの様子



TMDUポスター前で記念撮影



河内講師によるプレゼンテーションの様子



# プロジェクトセメスター

## 2014年度のプロジェクトセメスターがスタート！

本学は、2010年度より、プロジェクトセメスターの課程にある医学科4年生を約5ヶ月に渡ってチリの研究施設に派遣しており、LACRCでは彼らの研究・生活のサポートも行っています。本年度も6月9日に6名の学生がチリに無事到着いたしました。このうち3名がCLC、3名がチリ大学の研究室に配属されています。住民登録などの事務手続きの後、6月13日には指導教官や関係者がCLCに集まり学生の歓迎ミーティングが行われました。学生たちは英語と、覚えてたスペイン語を交えながら自己紹介をし、その後は各自指導教官らと研究の打ち合わせなどを行いました。また16日には訪智したTMDU訪問団との会食も行われ、交流を深めました。

彼らの留学生活は11年半ばで続きます。既に学生達は研究生活のみならずチリ人学生との交流等、貴重な時間を楽しんでいるようです。最後まで、無事に、充実した日々が送れるよう、LACRCはサポートしていきます。

### TMDUプロジェクトセメスターの学生によるブログのご紹介

学生たちが開設したブログでも彼らの生活をご覧いただけます。

ブログ名：東京医科歯科大学チリ留学記2014 ～チリはバッチリ！～

アドレス：<http://tmduchile2014.blogspot.com/>



歓迎ミーティング後、CLCにて指導教官らと記念撮影



チリ料理レストラン“El Aperó”にてTMDU訪問団とともに

### 編集後記

本月6日よりLACRCオフィスばかりでなく、CLCの各部門においても「FIFAワールドカップ熱」で盛り上がりしております。日本チームは、グループステージで2014年FIFAワールドカップブラジル大会から脱落してしまいましたが、河内先生や学生の皆さんと一緒に日本やチリの試合観戦を予想以上に見て楽しむことができました。今後とも、LACRCの活動や学生の留学体験記を本Newsletterを通じて、ご報告してまいります。(ハイメ)

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点  
Latin American Collaborative Research Center  
Newsletter No. 14, June 2014

[発行日] 2014年06月30日

[制作] Latin American Collaborative Research Center  
Tokyo Medical & Dental University  
Clínica Las Condes  
Lo Fontecilla 441, Las Condes, Santiago, Chile  
Tel: (56-2) 610 3780 Fax: (56-2) 610 8610  
Email: [jurrejola@clc.cl](mailto:jurrejola@clc.cl)